

サクランボ

国内外から収穫応援

列島各地の季節の農作業を求めて渡り歩く季節作業員や大学生、留学生、ボランティアによる新たな働き手やボランティアが入っている。労働力不足が深刻化する中、県やJAグループ、産地市町、労働団体などを挙げた「オール山形」による、あの手この手の労働力確保策が少しずつ実を結ぶ。日本一のサクランボ産地を応援する人たちの姿を追った。

神奈川から

季節作業エンジョイ 河北



本諒子さん（28）は、15歳（55）のサクランボ作業員として全国各地を

仙台白百合女子大から

肌で学ぶ食と健康 天童

【山形中央】天童市大人が農作業ボランティアとして訪れた。武田さんから作業の説明を聞いた後、学生は主力品種の「佐藤錦」を手詰めの作業を手伝った。

町で武田章さん（66）らが経営する「大町さくらんぼ園」には17日、仙台市の仙台白百合女子大学健康栄学科管理栄養士養成課程の1、3年生4人

が、武田さんから作業の説明を聞いた後、学生は主力品種の「佐藤錦」を手詰めの作業を手伝った。

武田さんは「管理栄養士を目指す学生さんは農

家の心を理解していくのでうれしい。大助かりです」と話す。

同大学からのボランティア受け入れは、JAグループ山形の働き掛けで昨年から始まり、2年目。

9日から7月1日までの土曜と日曜日、送迎バスで延べ約80人の学生がJAでんどう管内の3戸の農家を訪れ、作業を手伝う。

フランスから

高所作業も「任せて」 山形

【やまがた】山形市黒沢で農業と黒沢温泉「喜彦さん（73）方には、フランス人のミカエル・フュブレさん（31）がアルバイトに訪れている。大阪府の村中美香さん（33）も通訳を兼ねながら、一緒に手伝っている。2人は、今年1月にオーストラリアでサクランボ収穫のアルバイトを経

て、喜彦さんは農業と健康との関わりを学んでいるので、農業に関する心がある。収穫作業は農家の皆さんと交流できるので楽しい」と話した。

武田さんは「管理栄養士を目指す学生さんは農業の温泉水に漬かって疲れを癒やす。

自然好きのミカエルさんは本業は大工とスキーパトロール。枝切りは得意ななどが十分にできないでいた。こんなに切つてもらつたのは久しぶり」と話した。

二人は、7月中旬まで働

いて働ける。サクランボの詰め方がとてもきれいで驚いた」と笑顔を見せた。

小笠原さんは「働いてもらつて助かっている。歳を重ねるにつれ、枝切りなどが十分にできないでいた。こんなに切つてもらつたのは久しぶり」と話した。

二人は7月中旬まで働

いて働ける。サクランボの詰め方がとてもきれいで驚いた」と笑顔を見せた。

小笠原さんは「働いてもらつて助かっている。歳を重ねるにつれ、枝切りなどが十分にできないでいた。こんなに切つてもらつたのは久しぶり」と話した。